

II 各教科の正答率、誤答例及び所見

5 英語

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	2	396	83.2%	0	0.0%	80	16.8%	0	0.0%	83.2%
	問 2	2	357	75.0%	0	0.0%	119	25.0%	0	0.0%	75.0%
	問 3	2	440	92.4%	0	0.0%	36	7.6%	0	0.0%	92.4%
	問 4	2	384	80.7%	0	0.0%	92	19.3%	0	0.0%	80.7%
	問 5	2	298	62.6%	0	0.0%	178	37.4%	0	0.0%	62.6%
	問 6 (1)	3	431	90.5%	0	0.0%	45	9.5%	0	0.0%	90.5%
	問 6 (2)	3	422	88.7%	3	0.6%	46	9.7%	5	1.1%	89.0%
	問 6 (3)	3	92	19.3%	126	26.5%	184	38.7%	74	15.5%	33.7%
	問 7 (1)	3	430	90.3%	0	0.0%	45	9.5%	1	0.2%	90.3%
	問 7 (2)	3	401	84.2%	0	0.0%	75	15.8%	0	0.0%	84.2%
問 7 (3)	3	358	75.2%	0	0.0%	118	24.8%	0	0.0%	75.2%	
2	問 1	3	381	80.0%	0	0.0%	93	19.5%	2	0.4%	80.0%
	問 2	3	314	66.0%	4	0.8%	150	31.5%	8	1.7%	66.5%
	問 3	3	277	58.2%	0	0.0%	198	41.6%	1	0.2%	58.2%
	問 4	3	170	35.7%	71	14.9%	172	36.1%	63	13.2%	45.0%
3	問 1	3	249	52.3%	2	0.4%	178	37.4%	47	9.9%	52.5%
	問 2	4	88	18.5%	11	2.3%	356	74.8%	21	4.4%	20.1%
	問 3	3	407	85.5%	0	0.0%	69	14.5%	0	0.0%	85.5%
	問 4	4	293	61.6%	0	0.0%	182	38.2%	1	0.2%	61.6%
	問 5	4	288	60.5%	79	16.6%	40	8.4%	69	14.5%	71.6%
	問 6	4	278	58.4%	0	0.0%	195	41.0%	3	0.6%	58.4%
	問 7	4	155	32.6%	82	17.2%	128	26.9%	111	23.3%	41.7%
4	問 1 (1)	3	244	51.3%	0	0.0%	229	48.1%	3	0.6%	51.3%
	問 1 (2)	3	286	60.1%	0	0.0%	184	38.7%	6	1.3%	60.1%
	問 2	4	55	11.6%	99	20.8%	154	32.4%	168	35.3%	22.8%
	問 3	4	83	17.4%	68	14.3%	167	35.1%	158	33.2%	25.3%
	問 4 (1)	3	51	10.7%	12	2.5%	338	71.0%	75	15.8%	11.8%
	問 4 (2)	3	176	37.0%	25	5.3%	213	44.7%	62	13.0%	40.4%
	問 4 (3)	3	178	37.4%	1	0.2%	197	41.4%	100	21.0%	37.5%
問 4 (4)	3	130	27.3%	16	3.4%	239	50.2%	91	19.1%	29.1%	
5		8	24	5.0%	343	72.1%	55	11.6%	54	11.3%	40.9%

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

今回の学力検査の平均点は、55.6点であった。標本の通過率は55.6%で、標準偏差は23.65であった。出題数は大問が5題、小問が31題で、昨年と同数であった。その中で、記述問題は16問、選択肢問題は15問となっている。内容は、大問1が28点満点で放送を聞いて答える問題、大問2が12点満点で短めの文章を読み取る問題、大問3が26点満点で会話文を読み取る問題、大問4が26点満点で長めの文章を読み取る問題、大問5が8点満点で英作文となっており、出題の傾向に変更はなかった。

① 大問1は、放送を聞いて答える問題である。会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。大問1全体の通過率は77.7%であった。

問題1から問題3は、二人の会話を聞いて、絵の中から質問に対する答えとして最も適切なものを答える問題である。通過率はいずれも75.0%以上であった。問題2の誤答としてはイが最も多く、誤答全体の約5割5分であった。

問題4と問題5は、「ある場面」を説明する英文を聞いて、その場面に応じた適切な表現を選ぶ問題である。問題5の通過率は62.6%であった。相手の質問の意図に合わせて適切に応じる力を身に付けさせたい。

問題6は、Kazuo と留学生の Linda との会話を聞き取り、その内容について日本語で答える問題で

ある。(3)の通過率は、33.7%で問題6の中で最も低かった。正答とならなかった解答には様々なものがあつた。まとまりのある英語を聞いて、その概要を聞き取る力を身に付けさせたい。

問題7は、中学生の Masako が英語の授業で行ったスピーチを聞き取り、その内容に対する質問の答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。通過率は全ての問題で75.0%を上回った。

「聞くこと」の指導については、問題1のような短めの英語を聞くことから慣れさせ、継続的に指導する中で、問題6や問題7のようなまとまりのある英語についても慣れさせたい。また、「聞くこと」の指導の際、リンキング（音のつながり）やリダクション（音の脱落）についても意識させ、自然な口調で話される英語を聞き取る力を身に付けさせたい。

② 大問2は、短めの英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、基礎的な語や文法事項の定着をみようとしたものである。本文の単語数は約150語で、大問2全体の通過率は62.4%であつた。

問1は、*But they didn't know the town well.* を補う最も適切な箇所を答える問題である。通過率は80.0%であつた。普段の授業の中で、接続詞の働きに注意させ、その前後の流れを意識しながら英語を読む力を身に付けさせたい。

問2は、指示された語の適切な形を答える問題である。通過率は66.5%であつた。誤答のうち約9割が、単に *walk* を過去形にしたものであつた。正答は *walk* の直前に *be* 動詞があることから過去進行形である。過去形や過去進行形の区別などの基本的な文法事項の定着を図りたい。

問3は、英文の内容から判断して、空欄にあてはまる最も適切な語を選ぶ問題である。通過率は58.2%であつた。日常会話でよく使われる表現を身に付けさせたい。

問4は、本文の内容を読み取り、その内容に関する英語の質問に対して、英語で答える問題である。通過率は45.0%で、大問2の中では最も低かつた。理由を答える問題で、その理由は理解していると思われるが、英語で適切に表現できていない誤答が多かつた。特に空欄の後の *it* (*the bike shop* を指す代名詞) を含めて英文を完成させることができている誤答が多かつた。また、動詞の形が適切でないものもみられた。日頃から動詞の形に注意を払い英語で書く力を身に付けさせたい。

③ 大問3は、会話文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、場面に応じて英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。本文の単語数は約460語で、大問3全体の通過率は54.9%であつた。

問1は、会話の流れを読み取り空欄Aに入る適語を記述する問題である。通過率は52.5%であつた。正答とならなかった解答には、*care*、*lot*、*kind* などがあつた。中学校で学習した単語や連語を適切に使える力を身に付けさせたい。

問2は、自然な会話になるように、6つの単語を適切な語順にする問題である。通過率は20.1%であつた。正答とならなかった解答には様々な語順がみられた。正解にある *taking planes* のような動名詞の使い方を習熟させたい。

問3は、本文の内容に合っている英文を選ぶ問題である。通過率は85.5%であつた。誤答はAが最も多く、誤答全体の4割を超えていた。誤答選択肢のどこが本文と違うかを判断する力が必要である。

問4は、会話の流れに合わせて、空欄Bに適切な文を補う問題である。通過率は61.6%であつた。誤答選択肢のA、ウ、エは、大体同じ割合であつた。選択肢はそれぞれ違った疑問詞で始まる疑問文であるが、どの疑問詞を使った疑問文が適切であるかを判断するためには、空欄Bの前後の内容を的確に読み取る必要がある。

問5は、本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。通過率は71.6%であつた。正答とならなかった解答では、必要な情報の一部が欠けているものが多くみられた。

問6は、本文の内容に合っている英文を選ぶ問題である。通過率は58.4%であつた。誤答はAが最も多く、誤答全体の5割を超えていた。情報を正確にとらえる力が必要である。

問7は、与えられた場面に応じて適切な疑問文を答える問題である。通過率は41.7%であつた。疑問文の形や時制が正確に理解できていないものが目立つた。疑問文は、平叙文とは異なる語順になったり、動詞の形が変化したりすることが多いので、言語活動の中で何度も使用することで慣れさせることが重要である。

④ 大問4は、高校1年生の Hiroshi が書いた作文を読んで答える問題である。まとまりのある文章のあらすじや大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。本文の語数は約530語で、大問4全体の通過率は34.0%であつた。

問1は、本文の内容に合うように、与えられた英文の続きを選択肢から選ぶ問題である。(1)は、本文全体を読み取り、選択肢の正誤をそれぞれ判断する必要がある。通過率は51.3%であつた。誤答はウが最も多く、誤答全体の約5割であつた。(2)は、Hiroshi が英語を一生懸命勉強し始めた理由を読み取る問題であり、第3段落の冒頭部分を読み取ることで解答できる。通過率は60.1%であつた。

問2は、本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。通過率は22.8%であつた。正答とならなかった解答には、質問文の意図はとらえているが、主語の書き方、綴り字、その他の誤りも含めて複数の誤りのあるもの、また質問文にある *the most important thing* に十分正対しきれていない解答がみられた。語と語のつながりなどに注意して正しく文を書く力を身に付けさせたい。

問3は、本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。通過率は25.3%であった。第4段落の最初から *my father's words* を含む文までを読み、第3段落の終わりで Hiroshi の父親が述べている内容を読み取ることで解答できる。正答とならなかった解答には様々なものがあった。本文のあらすじや大切な部分を読み取る力を身に付けさせたい。

問4は、本文の内容をまとめた英文の空欄に適切な語を答える問題である。(1)~(4)の誤答は、それぞれ多岐にわたっていた。(1)の通過率は11.8%で、誤答の中では、本文2段落にある *worry* を用いたり、*worried*、*worrying* などと答えたものが多かった。(2)の通過率は40.4%で、誤答の中では *be* 動詞を用いたものが多く見られた。(3)の通過率は37.5%であった。誤答は多岐にわたっていた。(4)の通過率は29.1%で、時制、綴り字による誤答が多く見られた。

文法事項や語彙の定着は、言語活動の充実と切り離して考えることはできない。様々な言語活動のなかで、理解が不十分だと思われる文法事項の定着や語彙の定着の一層の充実を図りたい。

- ⑤ 大問5は、与えられた条件に従い、自分の考えなどが相手に伝わるように、英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。指示文では、[意見] *We should read books.* に対して、自分の考えなどを5文以上の英文で書くように示されている。その際の条件として、1文目は *think* を使って [意見] に対する自分の考えを、2文目以降はなぜそのように考えるのかを書くように指示されている。配点は8点である。通過率は、40.9%であった。

正答とならなかった解答の中で多くみられたのは、綴り字の誤り、動詞や名詞の形の誤り、文構造の誤り等であり、英文の内容を理解するのに支障をきたすものであった。また、文のつながりや構成が不適切で、話題の一貫性がないものや、同じ内容や表現を繰り返しているものもみられた。動詞や名詞の形、文構造の誤りの中では、例えば *I like read books.* のような動詞を二つ並べているものが目立った。その他の誤りとして顕著だったものに、接続詞の *because* がある。綴りと用法のいずれにおいても誤りがみられた。また、*Books is very important.* のように、動詞とその主語の数や人称の関係に誤りのあるものもみられた。

授業の中で基本文の定着を図る中で、文構造や語法の理解を深めさせていくとともに、短い文章であってもまとまりのある文章を書く力を付けさせたい。

トピック

本文の内容を理解するとともに、英語の質問に英語で答える

平成27年度入試では、平成26年度と同様に大問2の問4と、大問4の問2で、それぞれ本文の内容に対する英語の質問に英語で答える問題が出題された。平成26年度入試の大問2の問4の通過率は45.8%、平成27年度入試では45.0%であった。平成26年度入試の大問4の問2の通過率は13.6%、平成27年度入試では22.8%であった。

平成27年度入試の大問4の問2では、*What is the most important thing for making Hiroshi's English better?* と、本文の大切な部分が質問されている。質問で問われている箇所が、本文の *Now I study English every morning. This has become the most important thing for making my English better.* の部分であることを理解し、質問の答えとして適切な形で表現する力が必要となる。

初歩的な英語を使って、生徒が英語の質問に英語で答えられるようになるためには、日頃から英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を様々な言語活動を通して養う必要がある。例えば、教科書の内容を理解させる指導では、Q&AやT or Fなどが活用されているが、Q&Aでは Yes-No 疑問文にとどまらず、生徒の実態に応じながら *wh-*疑問文も積極的に取り入れていきたい。*wh-*疑問文では、生徒は答える内容をより一層考える必要があり、答えたい内容を英文で表現する際にも、主語や、動詞の形を意識しなければならない。こうした言語活動を繰り返す中で、初歩的な英語を使って、英語で表現できる力を身に付けさせる必要がある。

